



工化時報

第28号



Since 1938

物質応用化学科就職セミナー風景

平成24年2月6日(月)に学科の就職セミナーを開催いたしました。セミナーには41社が参加し、就職活動中の学部3年生、大学院1年生、約170名が積極的に企業ブースをまわって熱心な質問をしていました。

【参加企業一覧】

旭興産(株)グループ、アスク・サンシンエンジニアリング(株)、イチカワ(株)、岩井機械工業(株)、FDK(株)、カシュー(株)、河西工業(株)、(株)きもと、共同印刷(株)、(株)J-ケミカル、JNC(株)(チッソ)、昭和興産(株)、昭和電線ホールディングス(株)、ショーワグローブ(株)、(株)スズカフアイン、西武ポリマ化成(株)、(株)タジマ、東罐興業(株)、東京コンピュータサービス(株)、(株)東京めいらく、東洋アルミニウム(株)、東和耐火工業(株)、トーアエイヨー(株)、(株)巴商会、(株)七星科学研究所、(株)奈良機械製作所、日弘ビックス(株)、日鉄鋳業(株)、日本ケミカルズ販売(株)、日本ケミコン(株)、日本乳化剤(株)、日本パーカライジング(株)、日本プライブリコ(株)、(株)ノザワ、パウダーテック(株)、フジモリ産業(株)、HOYA(株)アイケア事業部、(株)堀場テクノサービス、三笠製薬(株)、ヤマシンフィルタ(株)、ロンシール工業(株)

工化会会長あいさつ

工化会会長 深澤 豊史

(昭和58年博士修了)



昨年5月の総会にて、会長に就任しました深澤豊史です。昭和52年学部卒、58年博士課程を修了し、父親（平成元年他界）の仕事を兄と二人で継いで現在に至ります。仕事は父の発明品である燃料添加剤の製造・販売で、四十年ほど継続しておりますが、私の父も現在の理工学部物質応用化学科の前身である工学部工業化学科の出身で（第三期卒）工化会の会員でした。本学科の為に何かお役に立てればと思って居りましたところ、工化会の役員に選ばれましたので、直ぐに引き受けさせていただいた次第です。昭和58年に大学を出てからは海外の事業等で数年間は忙しい日々でしたが、その後は国内で落ち着くようになり、年に一度の工化会の総会に毎年参加出来る様になりました。当時の会員数は現在の約半分の一万人程、総会では大先輩諸氏や恩師の先生方の中に混じって、ただ参加するだけで光栄に感じてましたので、今の様に二万人の大所帯になる事や、私が会長になることなどは当然想像もしてませんでした。何事も継続することは偉大なことで、工化会も学外の会員諸氏と学内の先生方とのご尽力により受け継がれ現在の立派な組織に成長したことは大変素晴らしいことと思います。

昨年は、わが国は歴史的な大惨事を経験した年でした。3.11として記憶される東日本大震災、三陸沖の太平洋海底で発生したM9.0の巨大地震により本州の三分の一の沿岸に想定外の大津波が押し寄せ、多くの人々の命を奪い、甚大な被害を与え、福島県沿岸の原子力発電所においては最悪の事故（放射性物質の漏洩と拡散）を引き起こしました。自然の恐ろしさを見せ付けられましたが、反面人の強さや優しさも再認識した年でもありました。日本国民のみならず世界各国の人々がこの大惨事を共有し、東北地方へ多大な支援があり、復興へ向けての大きな経済的・精神的支えとなりました。皇室をはじめ多くの団体・企業、又著名人や人気アーティストなどによる積極的な支援活動は全ての日本国民の心に、日本は一つである一丸であると言う意識を強烈に印象付け「絆」という言葉が自然に浸透してきました。原発事故ではエリート集団や国の指導者達の力不足には落胆しましたが、現場で

対処に当たる技術者諸氏や関係者の勇気・賢さ・献身的努力は、日本はもとより海外でも高く評価されました。強い絆で結ばれた日本の底力はその年(夏)の女子サッカーW杯日本代表チーム(通称ナデシコジャパン)の優勝にも反映されています。また誰もが復興を確信する日本への信頼感が後半(秋頃)に表面化した欧州経済危機に誘発された各国投資家の円買い(円高現象)の一要因であると考えるのは私だけではないと思います。

さて「絆」、日本大学では校友同士また大学と校友との絆の強さは伝統的に定評があり、私ども工化会に関しても学外会員と学内の先生方との協力の下に現在まで積極的な活動を行ってきております。絆は互いに共有するものがあって強くなるもので、その一つに情報があり、近年のIT社会ではネット上の情報共有というものが大きな意味を持っています。工化会では本誌「工化時報」もその一役を担っており、毎年、一万部を超える「工化時報」が会員諸氏に配られ、私ども会員の重要な情報媒体となっています。この読者である皆様が掲載されている情報を身近に感じ、親しみをもって頂けるのであれば、それはより一層生きてくることとなります。予てより、会員どうしの多くのお付き合いの情報として、同期会や研究室の同窓会の報告などの投稿を会報委員会では呼びかけており、これも会員にとっては身近に感じる情報に成り得ていると思います。二万人に及ぶ会員の中では、研究室の同窓生、同期の仲間などの大小様々なネット社会が存在し、工化会がこれらを互いに結びつける機能を果たすことが理想と思います。そのためには、会員の方々で行われる同窓会や同期会の報告などを本誌「工化時報」に積極的に投稿して頂き、情報を共有し、また年一度の総会・懇親会には出来る限り多くの会員の方々にご出席頂き、より一層「絆」を強めて行きたいと考えております。

微力も顧みずに引き受けた会長としての大役ですが、今後三年間、精一杯奉仕させて頂く所存ですので、何卒よろしくごお願い申し上げます。総会・懇親会等で皆様にお会いできます事を楽しみにして居ります。

多目的燃料添加剤の製造・販売

有限会社深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤豊史

物質応用化学科近況報告

物質応用化学科
主任 西宮 伸幸



平成23年度は大変な年でした。平成22年度の最後に起った東日本大震災は、平成23年度の奥深くまで影響を及ぼしました。そんな中、在籍学生やそのご家族に人的被害が一切無かったことは僥倖だったと言えるでしょう。

突然の激震が走ったのは、金曜日の昼、午後の仕事に疲れが見え始めたころのことでした。実験室にいた筆者は、無我夢中で水素ボンベを押えました。天井の蛍光灯が激しく揺れ、いまにも落ちそうでした。頭上に気を配りつつ、ボンベの転倒だけは防ごうと必死でした。院生も他のボンベを押えていました。書類の一部が散乱した程度で、ものが落下したり倒れたりすることもなく、長い揺れが収まりました。東京がこれだけ揺れたのだから震源地は大変なことになっているだろう、と思いつつ、まず自室の火の元の安全を確認し、教室事務室へ向かいました。重戸棚が落下し、書類などが床を埋めていました。戸棚の近くの教員には、あわや、という場面もあったと聞かされました。

2号館の正面玄関に向かう間、二つのことを考えました。学生の安全を確保することと二次災害を出さないことです。教員の安全は二の次、という思いでした。授業のない時期だったためでしょう、玄関には学生たちもいましたが、溢れ返るほどではありませんでした。教室幹事の教員が、教室主任として学生たちに避難指示を出すよう、筆者に求めましたが、直ちには応じませんでした。2号館が出火元になりでもしたら、二度とこの地で教育・研究を行うことができなくなる、そのためには各室の安全点検を行わなければならない、院生にも手伝ってもらわなければならない、と考えたためです。すぐ、若手教員に走ってもらいました。院生も何人か自室へ向かいました。若手教員には、火の元の点検、逃げ遅れたり閉じ込められたりしている人の発見および化学薬品の放散の有無の確認などを、全室くまなく行うよう依頼しました。おそらく10分から15分くらいに全ての部屋の点検が終わり、溶剤のガロン壺が1本割れて蒸気が立ち込めている部屋が1

つある以外は、基本的に無事であることがわかりました。その部屋の窓や周辺の廊下の窓を開放し、その状態で避難することとしました。避難先は近隣の錦華公園としましたが、原則としてはすぐ帰宅するよう、学生に指示しました。避難解除するための情報が入る見込みが無く、2号館が安全かどうかもわからないためです。

結局のところ、交通機関がストップしたため、帰るに帰れない学生が続出しました。よほどの事情が無い限り2号館は立ち入り禁止とし、1号館へ向かわせました。あとで知りましたが、1号館では水と乾パンが配られたようです。一般市民も受け入れたと聞いています。物質応用化学科の教員の猛者は、そんな中でも2号館に留まり続け、夜を明かしました。

2号館と8号館の連絡通路が大きな損傷を受けて使用不能になった以外は、窓が割れた程度で、外観上はとくに問題が無いようでした。専門家による診断で安全確認ができたため、4月から通常授業に入りました。余震のたびに授業が中断したり、夏場、節電でクーラーが使えない、廊下が暗い、などといったことがありましたが、非常時のことを想定しながら通常の生活を続けるという、緊張感のある日常が学生にとって良い影響を与えたと思います。授業への集中度は例年以上でした。

ほかにも困難なことが続出した平成23年度でしたが、一つ明るいニュースがあります。当学科所属の滝戸教授が学部長に再選され、任期を平成26年の9月まで伸ばしたことです。また、状況が厳しい就職戦線ですが、2月初めの集計では、大学院も学部も内定率8割を超えました。年末の段階では7割程度でしたので、年明けからOBの皆様に助けていただいた効果が大きかったと考えられます。

平成24年度を輝かしい年度とできますよう、今後ともなお一層のご協力をいただきたく、紙上を借りてお願い申し上げます。

静電容量型変位計・超音波リニアモータの輸入販売

Progress & Creativity

ピー アンド シー株式会社

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 2-10-39 (日総第5ビル10F)

電話 (045) 311-8651 ファクシミリ (045) 311-8652

ホームページ : <http://www.p-andc.com>

昭和35年卒 代表取締役 **安達 昭郎**

学科で進行中のプロジェクト研究

理工学部シンボリック・プロジェクト研究形成支援事業



無機材料化学第Ⅱ研究室
准教授 遠山 岳史
(1999年博士後期修了)

理工学部では将来の理工学部の学術の要となる研究を推進し発展させるため、学部長の指名により3つの分野（陸圏空間分野、海洋空間分野、宇宙空間分野）から5つの支援事業を実施しました。そのうちの1つとして「二酸化炭素を原料とした新規物質—材料変換プロセスの創製」という表題で学部長から指名を受けて私と11名の研究者とで研究をスタートしています。二酸化炭素(CO₂)は「不要なもの」と考えられていますが、もし、これを原料に材料を合成することができたならば、持続可能な社会が構築できると考えています。そこで、無機化学的手法、有機化学的手法、生物学的手法によるCO₂からの材料合成を進めています。研究はまだまだ始まったばかりですが、できる限り早く日大理工発の技術を世の中に広めていくよう努力しております。

日本大学理工学部プロジェクト研究



物質生命化学研究室
教授 榎 泰典

免疫細胞の中のiNKT (invariant natural killer T cell) 細胞と呼ばれる自然免疫と獲得免疫の中間の役割をする細胞群があり、サイトカイン分泌やその他の免疫細胞との相互作用により抗腫瘍性や免疫調節作用を持つことが明らかにされています。新たに食用キノコ類の酸性糖脂質画分にも同様の作用があることが分かり、本プロジェクトでは普段食する食品や食（発酵食品、伝統食）、或は天然物にこの活性を有する可能性を考え、その探索と解析を行っています。研究のきっかけは前任の大学で開始したもので、関わって頂ける方との共同研究を通じて更に大きな発展が期待できます。物質応用化学科と短期大学の先生方と共に、平成23年度の理工学部プロジェクト研究に採択されました。この成果は健康維持のための食事と免疫学の接点により明らかになり、健康食品や医薬品への発展的な応用に繋がる可能性があり、メンバー一同プロジェクトの成功に向けて協力しています。

新任紹介

物質生命化学研究室
助教 鈴木佑典



平成23年4月より物質応用化学科助教として着任しました鈴木佑典と申します。私はこれまで、理化学研究所フロンティア、ジョージア医科大学(現 ジョージア健康科学大学)、東海大学糖鎖科学研究所にて研究に従事してきました。研究内容としては、糖脂質や糖タンパク質等の複合糖質の新規構造解析法の確立及び機能解明研究を行っています。この度、歴史と伝統のある本学科の一員として、教育及び研究に携わる機会を与えて頂きましたことを感謝するとともに、大きな責任を感じております。まだまだ経験が浅く、至らない点が多々あるかと思いますが、社会で必要とされる人材育成につながるような教育・研究を目標とし、一層精進する所存です。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新任紹介

短期大学部応用化学科
助教 小川恵三



平成23年4月に応用化学科に着任致しました小川恵三と申します。こちらにお世話になる前は大学(化学科、薬学部)、分析機器メーカー、化学メーカーに勤務してまいりました。専門は生命化学領域の物質や機能性材料を対象としてX線分析等を用いた構造活性相関解析で、放射光用分析装置の設計・立ち上げなども経験してまいりました。企業に在籍しましたおかげで、実社会がどのような化学技術・分析技術必要としているかを直に把握することができ、入社試験や新入社員教育に関わる機会が多かったため、若い人々を実戦に導くことの難しさも知りました。これらを通して、あらゆることがブラックボックス化していく現代では、基礎知識・基礎技術を持っている人・使える人の養成が益々重要になっていると考えるようになりました。

今後は構造活性相関解析研究の継続と並行して、基礎化学教育に力を注ぐ所存ですので、よろしくご指導ご鞭撻のほどお願い致します。

平成23年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の教員の学会での受賞，学生の受賞，スポーツでの活躍をご紹介します。（集計期間：平成23年2月～平成24年1月）

【教員の部】

- ・小嶋芳行（無機Ⅰ） 無機マテリアル学会， 学術賞
- ・遠山岳史（無機Ⅱ） 12th Conference of the European Ceramic Society, First Place(Category: Bioceramics)

【学生の部（学術部門）】

- ・森健太郎（無機Ⅰ） International symposium for phosphor materials 2011, Student Poster Award
- ・安藤大志（無機Ⅱ） 5th International Conference on the Science and Technology for Advanced Ceramics, Poster Award
- ・市川 悟（高合） 理工学部学術講演会， 優秀発表賞
- ・會田圭佑（高合） 理工学部学術講演会， 優秀発表賞
- ・相馬宏樹（環微） 理工学部学術講演会， 優秀ポスター賞
- ・竹内 綾（超分子） 理工学部学術講演会， 優秀ポスター賞

【学生の部（スポーツ部門）】

- ・越川 龍（無機Ⅰ） 第75回全日本学生キックボクシング選手権大会，6階級チャンピオン大会ミドル級優勝
- ・久野新太郎（無機Ⅰ） 日本CAM-OFF MEETING 全国大会，スプリントB ヒート1および2 優勝
- ・秋山希望（無機Ⅱ） 東京都ボウリング選手権大会，3人チーム戦第1位



PVC・他合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

〒348-8585 埼玉県羽生市小松台1-603-29

TEL:048-561-5221

E-mail:SOUMU@showakvc.co.jp

ホームページ <http://www.showakvc.co.jp/>

昭和53年卒 代表取締役社長 **池本 俊一**

クラス会・同窓会の報告

平成24年度高分子合成同友会開催のお知らせ



高分子合成研究室は1972年に設立されてから2012年3月までに973名の卒業生を輩出しており、本年42期目の卒業研究生を迎えた。第10回目の総会は

2011年11月12日(土)駿河台校舎1号館にて昭和51年大学院卒業の久保隆様からの講演もあり、約100名の参加により大盛況であった。また新企画として、総会で大学院生の研究発表会を行い、優秀賞を3グループに授与した。本会は、豊富な人材ネットワークを気軽に活用できるサロン風産学連携拠点として研究室の枠を超えたネットワークへの発展を強く願っている。興味ある方は研究室(澤口 sawaguchi.takashi@nihon-u.ac.jp 03-3259-0819 ; 萩原 hagiwara.toshiki@nihon-u.ac.jp -0433 ; 星 hoshi.toru@nihon-u.ac.jp -0825)にご一報を! 第11回同友会総会は2012年11月10日(土)駿河台校舎1号館にて開催される。(同友会役員 関口優紀会長, 澤口孝志, 古橋雄二及び片桐正志副会長, 岡崎幹事長, 三柴晶子及び北谷戸尚会計, 新国禎倅及び小笠原守人監査)

有機同窓会・PS会合同総会報告



有機合成化学研究室の同窓会である有機同窓会とPS会はこの度、『滝戸俊夫先生の理工学部長再任を祝う会』を去る平成23年11月5日(土)にアルカディア市ヶ谷「穂高」(東京都千代田区市ヶ谷)で開催しました。有機同窓会は昭和27年3月卒を第1期として第19期までとのこと、一方PS会は昭和46年3月卒業生が第1期で平成23年3月卒業生が第41期であることから、約60年間に及ぶ卒業生が一堂

に会した集まりとなりました。

炭田幸宏有機同窓会会長，太田延幸P S会会長のかけ声も賑やかに，ご参会の皆様，それぞれに近況を紹介したり，情報交換をしたりという，悲喜こもごもな談笑が会場一杯に広がっていて，特別会員の妹尾学先生，中沢利勝先生，大月穰先生，青山忠先生を囲んだ歓談も至る所で盛り上がり，懐かしい話題も次々と紹介され，毎度ながらの和気藹々とした集まりとなりました。上條治夫先生が還暦とのことで，懇親会がより寛いだ雰囲気となりました。当日は天候にも恵まれ，約90名近い参加者を迎えることができました。『祝う会』は2時間あまりでお開きとなりましたが，絶え間ない話題は二次会，三次会と引き継がれた由，後日お伺いしています。有機同窓会とP S会は今後も継続して共催の企画を進める予定です。世代間の断絶が話題となる昨今，OB会として，先達の皆様の情報を後輩諸氏に引き継げるよう，今後も企画を続けたいと考えています。

平成23年環境微生物学研究室同窓会報告



2011年5月21日御茶ノ水ホテル聚楽にて，長田先生の退任記念&山中先生の傘寿記念祝賀会として，微生物工学／環境微生物学研究室同窓会を開催しました。お元気な山中先生の現在進行形の研究のお話に引き続き，長田先生の退任の挨拶があり，みんなしみりと聞き入っていました。この日集った第1期生から18期生までの約100名は，盃を交わし旧交を温め再会を約し合いました。

第1回(平成23年)工業化学科昭和49年，短期大学部昭和47年卒業生・大学院昭和51年修了生同期会(通称:四駆プラス)開催報告

第1回四駆プラス会は5月21日(土)に工化会60歳ホームカミングデー(参加費無料招待，図書カード2,000円分受領)に参加後，市川次良先生および村川信子さんをお招きして居酒屋プラザプラスワンで行われた。卒業後初めて再会する同期もいたが，面影はしっかり残っていたようで，



皆直ぐに青春時代にプレイバックし大いに盛り上がりました。毎年集まることを約束して散会となった。

同期会発起人 [青木壮慈朗(油化), 岡田雄二(高工), 尾島光春(分析), 菅野昭(油化), 佐藤憲一(有物), 澤口孝志*(高合), 志村修司(燃料), 中山郁雄(有物), 野原孝司(固触), 堀尾良宏(固触), 宮島伸明(有機), 元木英二(無機), 山中光徳(化工), 和久井弘子(固触)]

問い合わせ先 : 澤口 <sawaguchi.takashi@nihon-u.ac.jp>;
03-3259-0819

工化時報ではOB会・クラス会報告の記事を募集しております。掲載を希望される方は平成25年1月20日(日)までに下記アドレスまで200~300字程度の原稿をお送りください(紙面に余裕があればお写真も掲載します)。
E-mail: Jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp **【掲載料は無料!】**

日大習志野高校が大学キャンパス内に移転



平成23年12月, 日本大学理工学部船橋キャンパス内に本学の付属高校である日本大学習志野高等学校の新校舎が完成いたしました。平成24年1月より新校舎での授業が開始され, 高校生は大学の施設(階段教室・図書館・スポーツホール・テニスコート)等も利用することができます。このため, 今後は理工学部との高大連携教育がさらに推進されていくことが期待されています。

以下の会員におかれましては, 平成23年度にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し, ご冥福をお祈り申し上げます。

- ・工化会元会長 太田善造 様 (6月23日, 享年88歳)
- ・本学元教授 宮川継男 先生 (8月11日, 享年85歳)
- ・工化会元役員 伊藤和男 様 (12月21日, 享年90歳)

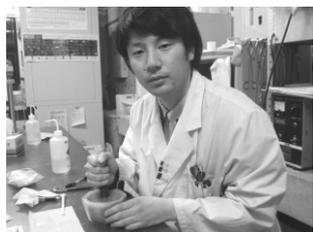
工化会賞受賞者の声**平成22年度 70周年記念賞若手研究者支援受賞者**

菊地 崇
(2011年博士後期修了)
生物資源化学研究室卒

私は、学部3年生の後期に生物資源化学研究室に配属されてから、博士前期課程および後期課程時代を同研究室で過ごし、2011年3月に博士号を取得いたしました。そして2011年4月からは、大阪薬科大学の医薬品化学研究室で助手として勤務しております。

現在は、医食同源の観点から食品(野菜やキノコ)に焦点を合わせ、それらに含まれる化合物の単離、構造決定および生物活性の評価を行っています。幸いにも、学生時代に行ってきた研究と同じ分野であるため、学んできた知識や技術を大いに生かすことが出来ています。また授業に関しては、有機化学実習(学生実験)のみですが、担当させていただいています。大学は研究機関であると同時に教育機関でもありますので、こちらが私の大事な仕事の一つです。最初はわからないことが多く、周りの先生方に迷惑ばかり掛けていましたが、今はだいぶ慣れてきました。学生時代に行ったTAや、高校生を対象とした一日体験化学教室のお手伝いをした経験が役に立っていると思います。

学生時代は、研究職に就きたいという夢をもって、大部分の時間を研究に費やしてきました。その夢は実現することができましたが、同時に研究者および教育者としての新たなスタートでもありました。いまの仕事を通じて、研究においては天然より有望な化合物を見出すことで医薬品開発に貢献したいと、また教育においては薬学部の教育に携わり医療人を育てることで社会に貢献したいと考えています。



亀井 真之介
(2011年博士後期修了)
無機材料化学研究室卒

私は2011年3月に博士号を取得し、現在は新潟大学大学院自然科学研究科 戸田健司准教授の研究室に産学官連携研究員(ポスドク)として研究しています。

こちらの研究室では、「結晶構造学」から、どのような材

料を合成し、どのように応用展開ができるか、という考え方をベースにしています。私の学位論文は、近年注目を浴びている白色ダイオード(LED)の発光素子の一つである無機蛍光体の合成と蛍光特性に関する研究でしたが、こちらの研究室でも無機蛍光体の研究について日々検討を行っています。しかし、蛍光体以外にも、光触媒、超伝導物質、またソフトプロセスによる複合酸化物の合成など他の物質についても結晶構造学の観点から検討をしています。少しずつではありますが、そのような方面についても知識が身につく幅広い無機材料の設計観を養うことができます。また、本研究室主催の下、蛍光体の国際学会(THE PHOSPHOR SAFARI 2011)の実行委員を務めさせていただき、多くの国内外の蛍光体専門家の方々と交流することができ大変貴重な経験となりました。

ただ、学生時分と異なり研究をしていくためには自分で研究費を稼がないなりません。そういった意味でもアカデミックでありながら実用的な研究を構築していくことは、ものすごく大変ですが研究職の醍醐味でもあります。一日でも早く一人前の研究者になり、自分の研究室を持てるよう、この道を究め邁進していきたいと思えます。

平成22年度 70周年記念賞奨学生支援受賞者

化学工学研究室所属 稲葉 真之
(平成23年 物質応用化学科卒)

僕はこの1年間、研究に加えて、御支援を下さった工化会への恩返しのつもりもあり、学部の2年生の学生実験の指導・補助を行うティーチング・アシスタント(TA)にも携わってきました。初めは説明が上手くいかず、場数を踏むにつれて教え方の難しさを実感しました。しかし同時にどう上手く説明すれば分かってもらえるかを考えることに楽しさを覚えるようになり、その結果、自分の学部時代の実験ノートやメモなどを参考にしつつ工夫して教えられるようになりました。今後、TAを通じて得られた「教える力」を生かしていけたらと思えます。

資源利用化学研究室所属 榎本 鼓
(平成23年 物質応用化学科卒)

現在、私は食品廃棄物から機能性物質を抽出する研究を行っております。また、日々勉学にも励み知識を身につけています。このように勉強や研究に打ち込めるのも、工化会の皆様のご支援があったためと、深く感謝しております。この受賞を励みに、これからも勉学に勤しみ、社会の役に立てる人間になっていきたいと思っております。これからも、大学院を志望する学生のご支援をしてくださることを願っております。

「工化会第2回ホームカミングデー」特集

一昨年“工化会ホームカミングデー”と冠し、会員との交流を促すイベントがスタートした。2009年6月に行われた工業化学科創設(1938年)70周年記念事業を受け80周年に向けた参加会員との“絆”の増強を目論んだ企画である。学部(短大・大学院)卒業して60歳を迎える年に大学に帰る“還暦ブーメラン：総会懇親会会費無料、図書カード2,000円分贈呈”が工化会ホームカミングである。また工化会ではこのような同期会開催に際し、ご案内往復ハガキの準備や郵送等の煩雑な業務を、工化会会員委員会がデータベースを用いて全面的に援助する体制を整えている。

1. お招きいただいて!



工化会副会長
尾島 光春(昭和49年卒)

「もしも、ネェ届いた?学校から何か我々の還暦を祝ってくれるイベントの案内——」。突飛もない書き出し。皆様なんだこれ。と思われた方も大勢おられたかと思います。実は、ホームカミングデーの招待状が届いた際、常々交流を持つ仲間との電話による会話内容です。第2回を開催する当たり工化会庶務委員長で且つ対象該当者でもある澤口教授より協力要請があり、直ちに学校へ馳せ参じました。既に何人かの仲間が席に座られ雑談をしていました。「ヤァ久しぶり」。「卒業以来だね」。「悪い顔は覚えているけど、名前を忘れた。ゴメン、ゴメン」などの会話が投げかけられ直ぐに学生時代へ。こうなれば早いもの対象者参加率を上げるための戦略並びに戦術を練りに練り、結論は各卒業研究室(全部で16研究室有り)より多分協力を頂けるであろう仲間を選択し、電話攻勢でキーパーソンに成って欲しい旨を説明。どうせやるなら出席率UP!を目指そうが合い言葉。

ホームカミングは平成22年度総会(16:00開始:参加者107名と大巾にアップ)終了後、会場を1号館2階カフェテリアに移し挙行されました。開始10分前には諸先輩方や後輩の方々に続き、肝心のご招待いただいた我々も約束通り参集し、内心“ホッ”。関口優紀工化会会長及び関口克明理工学部校友会副会長のご挨拶を頂き、乾杯へ。暫くすると大小様々な輪がお世話になった先生を中心に広がり、昔話に花

が咲き楽しい時間を満喫することができました。各研究室より任命された「キーパーソン」の皆様のチームワークの良さに改めて感服いたしました。

最後に、本催し物が途中で挫折することなく永きに亘り継続され、近い将来、対象者全員が出席できたという便りが届くことを期待すると共に、各年度卒業生の輪が益々広がって行くことを祈念し、筆をおろさせていただきます。楽しい思い出深い時間をご提供いただき本当にありがとうございました。ご馳走様でした。お疲れ様でした。

2. ホームカミングデーに参加して



東罐興産株式会社 取締役社長
岡田 雄二 (昭和 51 年卒)

私どもは日本大学理工学部工業化学科(現在・物質応用化学科)を卒業して、38年の月日が経ち、いつのまにか還暦を迎える年齢となりました。久しぶりに、お茶の水駅に着いて駿河台の会場に向かう周辺が様変わりした光景を目にして驚きを隠せませんでした。

また、大学の校舎も新しく立派になっており、月日の長さを感じた次第であります。会場で受付を済ませたが、会場に入ると懐かしい顔が何人か見受けられましたが、体形が変わった方、髪の毛が薄くなった方、ロマンスグレーの方がいらっしゃいましたが、皆様昔の面影を留めておられました。名前と顔が一致しない方。またご指導を受けました先生方も居られ、昔の思い出や現在の仕事の話に花が咲きました。同期全員で舞台上がり一緒に並ぶと、今まで同期かどうか判らない方々も段々思い出してきました。更にお酒を入ると昔の思い出を肴に話が弾み、時間がアツいう間に過ぎていきました。ホームカミングデーが終了し、同期の二次会が開かれ30余名の方が出席されました。その中でも、昔の思い出を肴に大いに盛り上がりました。また何人か学生時代に見せたこと特技等を披露し、夜が更けていきました。最後に次年度以降も同期会の開催を行うことを確認して、二次会も終了しました。

末筆ながら、意義ある本ホームカミングデーを企画開催して頂きました関係者方々には、心より感謝申し上げます。また同期会の開催に尽力されました幹事の方にも心より御礼申し上げます。更に本会が継続され盛大になることを祈念しております。

平成23年度工化会事業報告

平成23年度工化会通常総会は、駿河台校舎1号館2階121会議室にて平成23年5月21日(土)午後15時より役員・会員107名(委任状380名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務、会計、会員、会報の各委員会の平成22年度事業報告および会計報告、ならびに平成23年度事業計画および会計予算案、役員の改選案、校友会の個人表彰の推薦者案の審議を行い、これらを承認しました。通常総会終了後、同館2階カフェテリアで懇親会を催しました。本年度の懇親会にも還暦を迎えられる卒業生の皆様をご招待し、盛会の内にお開きとなりました。

事業計画としては役員会、通常総会の開催、駿河台入試フォーラム2011・第12回日本大学理工学部一日体験化学教室・CSTオープンキャンパス2011・第8回産学連携交流会・第6回物質応用化学科就職セミナー並びに第4回短大ものづくり&サイエンススクールの後援、工化会独自の講演会の開催、工化会賞の授与が決まりました。

この中で工化会独自の講演会は、平成23年12月13日(火)に学部3年生を対象に、工化会会長深澤豊史氏を講師にお招きして、「キャリア教育」や「工化会とは?」、「工化会から贈られる各賞」等についてお話していただきました。

また、平成21年度から工化会として卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した者に工化会賞を授与しています。本年度も厳正な審査の結果、大学院生1名、学部生27名、短大生1名を表彰者として、3月25日(金)の学部・大学院・短大の学位記伝達式の際に、賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。なお本学科の創設70記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象)、奨学生支援(学部の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業予定者で高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた者が対象)については、それぞれ、1名、1名、15名に対して支援・授与が行われました。

平成23年度の工化会予算については、予算を経常会計予算と特別会計予算の2種類作成しており(特別会計とは準会員(学生会員)還付金を管理するための会計です)、平成23年度経常会計予算は総額228.6万円で、学生支援事業(10.7万円)各種講演会・行事補助費(70.0万円)、卒業生支援事

業(141.1万円)、その他(5.0万円)、次年度繰越金(1.8万円)であり、特別会計予算は総額1148.9万円で、卒業生支援事業(64.5万円)、会費・寄付金郵便振替対応業務(3.7万円)、次年度繰越金(1080.7万円)を計上しております。なお、平成22年度の会員諸氏による会費の納入状況(平成23年4月1日～平成24年1月31日)は、納入者数391名、納入金額は約79万円となっています。納入者の中には複数年度分の会費を納入された方や、寄付をお寄せいただいた方も多数おられますが、本号の会費納入者氏名一覧の掲載を持ってこれらの方々への御礼に換えさせていただきます。

さて、本年度は理工学部校友会の個人表彰者として工化会から、田尻勝紀氏(昭和34年卒)並びに栗田公夫氏(昭和38年卒)を推薦致しました。

最後に平成23年度の工化会主催行事ならびに後援行事の概要を記載します。

- ① 平成23年4月17日(土)15:00～18:10 役員会
役員35名出席(委任状28名)
- ② 5月21日(土)15:00～16:45 通常総会
- ③ 6月5日(日)駿河台オープンカレッジ2011
高校生163名が参加
- ④ 7月17日(日)駿河台入試フォーラム2011
高校生295名が参加
- ⑤ 7月23日(土)第12回日本大学理工学部一日体験化学教室
高校生47名が参加
- ⑥ 7月30日(土)、31日(日)CSTオープンキャンパス2011
高校生591名が参加
- ⑦ 10月29日(土)第4回短大ものづくり&サイエンススクール
地域の方94名が参加
- ⑧ 平成24年2月6日(月)第6回物質応用化学科就職セミナー
産学連携交流会と統合し実施
- ⑨ 2月25日(土)、26日(日)第5回合格者相談会
以上 庶務委員会

産業廃棄物の収集・運搬、中間処理及びリサイクル



〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3-347

志と覚悟・情熱 60年卒 鈴木 義弘

TEL 048-955-1632 E-mail : sanei-k@misato-net.com

ホームページ : <http://www.misato-net.com/3ak/>

会費,寄付金納入者名簿 (平成24年2月1日現在)

昭和16年卒業	石田 宏	矢野 弘子	金沢 成光	森 隆郎
和田守 哲治	片岡 英世	吉田 幸三	河合 哲次	旭 重男
天野 章	高田 芳行	昭和32年卒業	酒井 孝次郎	磯崎 昭徳
津崎 統一	林 貞吉	阿久津 芳彦	定方 聰博	長田 守一
昭和17年卒業	昭和28年卒業	網代 良太郎	塩澤 進	長友 良久
小川 守三	石垣 恭弘	石井 孝二	須永 晋	植木 庄左衛門
稲垣 達雄	鈴木 一成	石渡 正夫	高尾 俊行	児玉 義宏
笹岡 義人	田村 佐重	工藤 富司	瀧澤 文男	佐々木 賢明
昭和18年卒業	田村 碩基	小谷 豊	難波 純一	昭和38年卒業
浅谷 公洋	宮尾 利政	園田 勲	西嶋 泰世	吉井 彰子
金井 昇介	村上 全司	田中 昭男	野島 秀次郎	井野 二陸
小林 和夫	栗田 吉男	田村 浩司	原 幹夫	佐野 直道
吉永 利男	桜井 裕	竹内 孟	増田 澄	大橋 隆
昭和19年卒業	竹村 政一	竹原 晃	町田 収	大村 俊晴
矢野 誠	徳永 静	東海林 正	谷田部 寛昭	木村 次雄
脇 幹夫	福島 敏郎	樺本 弘昭	渡邊 高章	小松 允
玉置 弥栄	堀 武	細谷 文夫	倉形 邦英	栗田 公夫
日暮 忠弘	山口 猛	矢作 栄甫	佐久間 恒和	坂本 一
昭和20年卒業	渡邊 靖	依田 恵市	武田 弘	酒井 誠一
安彦 不二雄	吉川 和夫	池脇 敬宜	関口 勝	竹内 栄多
磯 基道	昭和29年卒業	渋谷 六郎	丸山 長資	塚田 豊
神本 慶助	浅川 和昭	村松 勉	宮本 實	内藤 清剛(逝去)
重藤 捨雄	井出 道明	福島 弘之	大石 昌弘	中澤 隆夫
滋谷 洋平	石井 喜悦	昭和33年卒業	村川 信子	中原 章夫
杉浦 銀蔵	井上 秀雄	阿部 正明	山本 成也	永田 正巳
昭和21年卒業	井上 頼淑	丸山 義三	昭和36年卒業	西浪 毅
石川 幸一	加藤 浩一郎	青山 達也	畔上 統雄	西山 孝彦
岸 照二	瀧谷 俊雄	五十嵐 輝行	石井 四郎	原 正樹
斉藤 光平	谷川 清	大井 壽	石井 照明	山口 重周
斎崎 行太郎	奈良 富雄	奥野 士郎	石川 隆夫	渡部 長幸
松本 健次	峯岸 俊夫	加賀 勲之助	宇賀治 正名	荒谷 作松
昭和22年卒業	村松 俊作	柏崎 敏郎	漆原 孝太郎	小幡 洋
別所 範鑑	八田 肇	久保田 景一	越智 健二	長嶋 潜
大森 威男	米山 廣保	熊谷 祐一	飯戸 斌	白石 益郎
昭和23年卒業	渡邊 文夫	小林 脩一	川上 進	杉田 松生
店網 武男	大内 蕃	才木 義夫	河内 宗弘	藤野 裕
伊東 達郎	高橋 久雄	齋藤 二郎	北林 伸一	昭和39年卒業
伊藤 讓	米田 虎雄	高木 三郎	栗村 規雄	赤池 昭彦
上野山 高正	昭和30年卒業	滝淵 幸二	黒尾 良康	秋本 幹夫
昭和24年卒業	綾野 怜	中島 眞喜雄	越田 明保	石井 国昭
青池 嘉一	金井 孝道	齋藤 中辻 實治朗	越田 博	石川 和正
小倉 契秀	高野 俊彦	西野 武	坂本 昌伍	片岡 康浩
昭和25年卒業	寺島 賢治	藤田 亘弘	鈴木 善治郎	金田 勉一
小林 猛夫	長谷川 稔	箕浦 滋	炭田 幸宏	神谷 中
市川 安邦	古川 新	宮森 隆志	崎下 昌道	亀村 轟
尾高 陽一	松田 誠一	吉田 靖	高柳 裕臣	渡辺 久和
木根測 弘水	森 康男	神保 忠男	武田 光司	児玉 義宏
神田 雄三	植竹 和也	広瀬 俊雄	古澤 祖	栄一 佐藤
丹野 裕	笠間 三男	青木 弘	松本 規雄	斎藤 伸之
吉岡 典照	臼井 徹郎	昭和34年卒業	村越 英彦	斎藤 博之
吉田 耕一	小林 國平	牛込 力夫	村田 敏弘	斎藤 守園
昭和26年卒業	昭和31年卒業	大久保 勝弘	矢本 ?郎	鈴木 功
鈴木 信夫	伊藤 博国	児玉 五男	柳 弘来	鈴木 庸一
棚池 宏明	長縄 な老子	佐藤 忠	横山 樹静	瀬尾 宏
棚橋 和弘	尾関 富夫	桜井 錠二	吉田 昌弘	竹石 肇
平田 達男	川口 國雄	田尻 勝紀	佐藤 貞男	武田 幸久
稲垣 正	小島 照美	玉置 憲三	砂川 憲二	奈良木 亨丞
太田 精一	小松原 彬	永田 昌三	野村 友次	中田 博
加納 照彦	鈴木 一郎	藤森 信正	中村 紀史	中野 洪
川西 正人	田中 宏之	松浦 豊紀	小串 昭宗	仲野 一次郎
小島 和夫	高木 弦	宮 道夫	昭和37年卒業	野口 文雄
谷 俊一郎	高橋 一正	横倉 隆康	伊藤 成利	野尻 義雄
渡邊 光夫	役重 典之	小田切 孝光	井上 靖治	原 襄輔
昭和27年卒業	中沢 利勝	栗原 孝夫	奥山 正之	平井 勲
植松 貢	長縄 賢	昆野 澄夫	梶山 秀矩	堀 是治
柏木 治彦	橋本 圭右	寺山 毅義	小林 昭朗	田幡 安郎
日置 隆	廣橋 亮	昭和35年卒業	駒井 俊雄	矢野 彰一郎
市川 次良	本山 方史	安達 昭郎	斎藤 一郎	山崎 彰
勝又 茂	伊藤 ミサヲ	青木 滋夫	清水 大三	横田 力男
木下 眞喜雄	米倉 久雄	青木 弘	庄司 翠	和田 高伸
国分 兼一	柿澤 正彦	石川 好隆	杉崎 秀夫	青木 匡
櫻木 輝志	市町 衆司	内田 穆堂	丹野 彰	板橋 重光
新谷 光良	雁部 敬夫	笠井 啓也	塚田 政弘	越智 護
和井内 徹	小宮 順子	梶原 康敬	長谷川 修一	香山 武夫
井出 俊一	田畑 調友	黒木 妙子	本田 睦治	北村 隆

小屋原 英雄	成田 勝紀	三宅 久利	荒澤 康夫	加來 洋子
鈴木 良治	能代田 順久	昭和47年卒業	井之上 佳三	林 由浩
瀬尾 直朝	山崎 博	駒屋 伸雄	梶 公一	藤池 一誠
田中 誠悦	昭和43年卒業	齊藤 菊夫	高野 智	堀江 里衣子
高松 武生	浅井 保雄	丹呉 秀博	佐野 勝栄	平成5年卒業
寺山 洋子	新井 浩一	森 伸一	昭和52年卒業	小泉 公志郎
中野 弘	安藤 公一	山口 勇	栗村 嘉明	米田 哲也
橋本 信之	宇智田 俊一郎	山田 和夫	荻原 謙二	平成6年卒業
富士 光男	海上 幸三	飯倉 登美雄	斉藤 孝	遠山 岳史
稲見 義子	榎本 武夫	深澤 康俊	最勝寺 公英	清水 孝
坂口 栄	北村 正孝	山崎 雄三	土岐 正史	佐藤 順一
藤池 曠子	斉藤 明臣	昭和48年卒業	古橋 雄二	平成7年卒業
昭和40年卒業	及川 誠之	加來 文隆	生方 正之	岡田 賢識
高田 菊平	佐藤 精二	指田 高好	昭和53年卒業	谷合 哲行
有田 喜一	進藤 宣詔	瀧口 誠典	五十嵐 博	平成8年卒業
岩崎 鑑一	昭和44年卒業	平林 明夫	池本 俊一	野地 章平
上田 輝世	安藤 純一	山中 操	勝亦 章行	平成9年卒業
上野 公雄	石井 和夫	吉井 康雅	黒澤 錬二	浮谷 基彦
牛山 恵次	石山 利男	渡辺 明典	鐘 信弘	林 秀憲
神谷 恒雄	井上 隆	大高 由輝	深津 誠	平成10年卒業
河村 勝弘	今脇 秀雄	川津 義人	吉田 光夫	伊掛 浩輝
佐藤 瑞雄	大橋 正宜	坂口 信昭	昭和54年卒業	斉藤 博之
清水 博太郎	岡本 彬	関口 優紀	新井 幸保	平成11年卒業
土田 鑑一	川瀬 成彦	岡本 雅美	小笠原 幸道	浮谷 彰
向井 常雄	北島 徹夫	昭和49年卒業	太田 延幸	樋口 孝夫
高橋 志郎	剣持 晃	相澤 貞	椎野 宏明	平野 壮哉
武井 秀彦	末延 温之	青木 壮慈朗	露木 章	平成13年卒業
丹野 隆善	関口 信夫	伊藤 章人	中村 真理子	橋内 誠
西脇 鉄雄	田中 敦	牛山 仁司	服部 洋一	藤田 尚之
幡野 匡彦	田中 通夫	尾島 光春	村井 信次	平成14年卒業
廣田 才之	花井 秀之	大久保 貴一	目良 昌三	角田 雄亮
三谷 治郎	堀 豆弘	岡田 雄二	谷藤 善美	吉川 賢治
飯原 打越	八幡 順一	菅野 昭	山中 一典	瀧澤 慶子
山岡 景仁	横山 二郎	久保 隆	昭和55年卒業	平成15年卒業
昭和41年卒業	渡辺 光仁	黒崎 泰海	小笠原 一恵	山根 麻衣子
相見 光郎	小田原 豊	小嶋 健司	小笠原 守人	平成16年卒業
楠 勝行	工藤 智教	小島 元昭	金子 堅司	田代 哲也
重田 勲次	小林 勉	小林 文雄	波岡 宣彦	最上 尚行
高桑 豊	浜田 文雄	小林 正男	森 弘通	瀧澤 慶子
塚田 悦造	原 幸夫	小茂田 英男	昭和56年卒業	平成19年卒業
奈倉 正宣	昭和45年卒業	佐藤 憲一	熊谷 一弘	亀井 真之介
塙 仁一	稲葉 弘	澤口 孝志	大沼 明	薄 舞子
藤池 誠治	植田 雅晴	志村 修司	昭和57年卒業	平成20年卒業
堀内 宣秀	大島 康行	末木 康行	佐藤 慎一	東條 未樹
真下 清	小林 満	鈴木 敏幸	伊藤 和宏	金井 健太郎
芳崎 弘一郎	篠崎 勝彦	高本 秀夫	昭和58年卒業	平成21年卒業
伊藤 英武	田中 頌	竹内 久人	岩崎 好高	吉田 隼人
木村 勲	滝戸 俊夫	武安 栄樹	栗原 清文	平成22年卒業
沢村 金吾	土田 久	館 徹	鈴木 澄夫	星野 宏
館 敏夫	中沢 之博	野沢 美文	昭和59年卒業	教職員
彦田 一夫	永島 一男	野原 孝司	大坪 利彰	青山 忠
丸山 武紀	野本 幹夫	横 孝悦	観音寺 信夫	梅垣 哲士
玉應 亨三	服部 正隆	松本 和明	清水 繁	小川 恵三
昭和42年卒業	平塚 良一	元木 英二	昭和60年卒業	榎 泰典
岡見 宏道	宮内 和司	山崎 純一	鈴木 義弘	須川 晃資
香取 省二	望月 昭宏	山下 潤三	昭和61年卒業	鈴木 佑典
片岡 庸郎	森崎 正美	山中 光徳	片桐 正志	長田 洋子
栃木 勝己	山田 達雄	和久井 弘子	小嶋 芳行	西宮 伸幸
中井 忠男	加村 尚喜	澤崎 芳男	昭和62年卒業	平野 勝巳
中川 芳雄	佐藤 宗衛	昭和50年卒業	加藤 慎次郎	
永井 鑑志	瀬戸 博	上田 賢二	幾留 孝司	
永田 一雄	寺田 高德	上條 治夫	昭和63年卒業	
豊田 文江	森田 尚	木股 茂	石井 睦子	
橋本 廣雄	昭和46年卒業	佐藤 栄一	中道 幹芳	以上651名
山下 睦之	小谷 将彦	汐澤 日出夫	三井 宏	
渡部 高尚	斉藤 政久	鶴田 正之	平成元年卒業	
稲川 栄一	島津 学	中野 功	黒田 美和子	
長田 義男	鈴木 博一	三好 美智夫	平成3年卒業	
佐藤 馨	丹野 幸久	牛込 淳彦	高田 昌子	
田中 秀也	中村 修	長井 一良	平成4年卒業	
高橋 秀雄	冬室 誠	昭和51年卒業	宮崎 裕子	

編集後記

工化時報編集委員会、ホームページ担当の谷川です。今号から工化時報の発行部数を増やしました。世の中の流れに合わせて工化時報も電子媒体主体に傾いていましたが、OBへの情報発信ということから紙媒体のほうが見やすく保存もできるので好評のようです。OB会などの情報を増やし、興味を持っていただけるような紙面づくりを心掛けていきたいと考えております。また、物質応用化学科のホームページは現在更新作業中です。学科ホームページのリニューアルと共に新しい工化会のホームページで会員の皆様に紙面ではお伝えできない様々な情報をリアルタイムでお伝えしていく予定です。ご期待ください。

(工化時報編集委員 平成9年卒 谷川 実 記)

お知らせ

平成24年度の行事予定

6/2(土) 工化会総会 15:00～ (121会議室を予定)

※総会后、工化会ホームカミングデーを開催

7月下旬 一日体験化学教室

8/4(土), 8/5(日) CST オープンキャンパス 2012

連絡先

- ・住所変更に関する問合せ→会員(深津 TEL:03-3259-0805)
- ・会費に関する問い合わせ→会計(清水 TEL:03-3259-0803)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(平野 TEL:03-3259-0815, FAX:03-3293-7572, E-mail: jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp)
- ・上記以外の関する問合せ→庶務(栗原 TEL:03-3259-0822)

広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲載料 1件 : 10,000円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

伊藤和雄, 石黒香織, 小川 誠, 永島一男, 橋本徳子,
須川晃資, 谷川 実, 遠山岳史, 西村克史, 萩原俊紀, 平野勝巳

学生編集委員

4年 秋山希望, 池田有沙, 葛山 諒, 澁井岳史, 三品優李

3年 阿川由里, 斉藤 翔, 田丸慎司, 鳴海奈々, 森田啓子

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>